日本細菌学会
北海道支部会報

特集

新世話人からの自己・研究紹介!

2017 年 12 月 第 26 号

編集・発行　日本細菌学会北海道支部

目次

< 第 84 回日本細菌学会北海道支部学術総会報告 > -3

最優秀賞を受賞して

酪農学園大学大学院獣医学専攻　食品衛生学ユニット　　佐藤　友美 -4

Testimonial Award

Department of Oral Microbiology, School of Dentistry, Health Sciences University of Hokkaido　　Citra Fragrantia THEODOREA -5

優秀発表賞を受賞して

酪農学園大学 獣医学群 食品衛生学ユニット　　福田 昭 -6

優秀賞受賞にあたって

北海道大学大学院保健科学研究院　病態解析学分野　　大久保寅彦 -7

< 特集　新世話人からの自己・研究紹介! > -9

私たちの研究室

酪農学園大学 獣医学群獣医細菌学ユニット　内田　郁夫 -10

ご挨拶

札幌医科大学医学部動物実験施設部　佐々木 崇 -11

研究室紹介

北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター感染・免疫部門　　古田芳一 -12

幹事就任の挨拶

帯広畜産大学 獣医学研究部門 基礎獣医学分野 廣井豊子 -14

研究室紹介　－細菌と原生生物の狭間で－

北海道大学大学院 保健科学研究院 病態解析学分野 感染制御検査学研究室 -15

大久保寅彦

ご挨拶と研究室紹介

札幌医科大学医学部微生物学講座　　佐藤　豊孝 -16

< お知らせ > -17
第 85 回日本細菌学会北海道支部総会開催にあたって
酪農学園大学獣医学群獣医学類　　内田　郁夫 -18

第 92 回日本細菌学会総会に向けた準備状況
北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野　　山口博之 -19

日本細菌学会北海道支部会則 -20

日本細菌学会北海道支部学術総会歴代開催記録 -23

日本細菌学会北海道支部 平成 28-29 年度新役員・名誉会員名簿 -25

編集後記
日本細菌学会北海道支部長 横田 伸一 -27

第 84 回日本細菌学会北海道支部学術総会報告

最優秀賞を受賞して

酪農学園大学大学院獣医学専攻　食品衛生学ユニット

佐藤　友美

この度は私どもが発表しました「札幌市内動物病院スタッフにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)保菌リスクと MRSA 対策マニュアルの有効性」を最優秀賞に選考頂き、皆さまに厚く御礼申し上げます。

MRSA は院内感染の原因となる最も一般的な病原菌で、MRSA 感染症による死亡率および医療費の増加が問題となります。また、犬や猫などのペットや家畜からの MRSA 分離報告も増えており、獣医療でも緊急な対策が必要です。本学術総会では、同地域における動物病院の MRSA の状況を 2008 年と 2016 年で比較し改善がみられたこと、さらに日本では唯一の獣医療における院内感染対策マニュアルが有効であったことを発表させていただきました。今回は多くの先生方に私たちの研究を紹介する機会をいただき、このような貴重な賞まで頂けましたことに大変感激しております。

私は学部卒業後、公務員獣医師として食品・環境衛生業務に従事しました。業務を通じて獣医療における薬剤耐性菌の制御は家畜経済、公衆衛生の面からも重要であることを痛感し、知識を深めたいと思い大学院進学を決意しました。進学当初はブランクもあり、論文 1 つ読むにも苦労しましたが先生方のご指導と研究室のメンバーに支えられ、またこのような学会での先生方からのご意見も強い励みとなり、モチベーションを維持することが出来たと感謝しております。この 10 月で院 4 年となり、残りわずかな大学院生活となりますが、自分の興味と研究に真摯に向き合い、楽しく実験を進めたいと思います。

最後になりますが、本学会の開催にあたり御準備くださいました東秀明先生をはじめスタッフの皆さま、日頃よりご指導いただいております田村豊教授と臼井優准教授に心より感謝申し上げます。また獣医療関係者のみなさんはもちろん、ご自宅でペットを飼われている皆さまには、MRSA に限らず人獣共通感染症の伝播防止のために動物との触れあいの後の十分な手洗いをお願い申し上げます。

佐藤　友美

<略歴>

茨城県水戸市出身。

2014 年 10 月　酪農学園大学大学院入学。

<主な研究テーマ>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の分子疫学解析

<趣味>

弓道、お酒、読書（綾辻行人、島田荘司、松本清張などミステリーばかり読んでいます）

Testimonial Award

I am greatly honoured and feel very delighted to receive a 'Young Scientist Presentation Award' in The 84th Hokkaido Branch Meeting of Japanese Society for Bacteriology, August 26 2017. This is not only a recognition of my own research, it also recognizes the importance of this topics in the bacteriology's field especially related to the oral bacteria. Receiving this award really encourages me in my future research and I hope that the attention will also encourage other researchers with similar research interests. This prestigious award reflects a positive outcome for my Department of Oral Biology, Faculty of Dentistry, Universitas Indonesia. Dean of Faculty Dentistry of Universitas Indonesia, Dr. Yosi Kusuma Eriwati, M.Si, Ph.D was very pleased of this achievement. She said "Through these endeavours, the successful collaborative research engagement between Japan and Indonesia, especially Health Sciences University of Hokkaido and Universitas Indonesia will be continue in the future." Needless to say, I am grateful to have a lot of support from my husband and my family members. Last but not least, I am immensely grateful to be acknowledged my supervisors: Professor Futoshi Nakazawa and Dr. Izumi Mashima. I highly appreciated of their support, collaboration, guidance and invaluable impulses that were truly inspiring."

Citra Fragrantia THEODOREA

Post Graduate Student

Department of Oral Microbiology, School of Dentistry,

Health Sciences University of Hokkaido

1757 Kanazawa, Tobetsu - Ishikari, Hokkaido

061-0293, Japan.

Phone: + 81-133-23-2484

Fax: + 81-133-23-1385

Email: citraob@gmail.com ; citravtr@hoku-iryo-u.ac.jp

優秀発表賞を受賞して

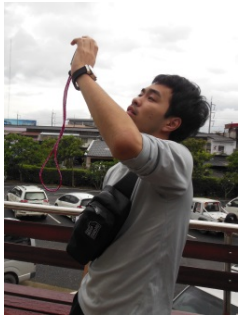
酪農学園大学 獣医学群 食品衛生学ユニット
福田 昭

この度、第84回の日本細菌学会北海道支部学術総会において発表いたしました「ハエが運ぶカルバペネム耐性菌の性状」という演題に対しまして、優秀賞を頂くことができましたことに厚くお礼申し上げます。

昨今、抗菌薬に対して耐性を持つ薬剤耐性菌の出現・拡散が世界的な問題となっております。日本においても内閣府から「薬剤耐性対策アクション・プラン（2016-2020）」が発出され、薬剤耐性菌の制御に向けて数値による成果目標が設定されました。その中で、今回の発表テーマであるカルバペネム系抗菌薬は薬剤耐性菌を治療する際に使用するまさに「最終兵器」であり、研究でカルバペネム耐性菌を含む多くの耐性菌が広く環境に存在することを再認識させてくれました。

大学院進学後、4年続けて本学会で発表の機会を頂き、獣医学分野だけでない多分野の先生方に囲まれ、新人に対してあたたかい励ましを頂ける学会と感じておりました。学部時代を含め、北海道で10年間生活しておりましたが、来年度からは北海道を離れることになると思います。来年度以降も微生物を扱っているとは思いますので、別の機会でまたお会いした際は、皆様方の尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、受賞のご挨拶とさせて頂きます。

最後になりますが、本総会の開催に当たってご尽力頂いた北海道大学の東 秀明先生をはじめとしますスタッフの皆様、また日々ご指導いただいています田村豊先生、臼井優先生をはじめ、研究室のメンバーに感謝申し上げます。



福田 昭（Fukuda Akira）
〈略歴〉大阪府大阪市出身。 2014 年酪農学園大学獣医学部卒業、同年酪農学園大学大学院入学。現在4年生。獣医師。
〈主な研究テーマ〉
薬剤耐性菌の伝播・拡散におけるハエの役割
〈趣味〉
水泳、スノーボード、ライブ参戦

優秀賞受賞にあたって

北海道大学大学院保健科学研究院　病態解析学分野

助教　大久保寅彦

この度、第 84 回日本細菌学会北海道支部学術総会におきまして、発表演題「札幌地下歩行空間での空気中浮遊細菌の菌叢解析」に対し、優秀賞を頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。

本研究は、ヒトが多数行き来する密閉空間に、どのような細菌が浮遊しているかを検証したものです。空気中に細菌が浮遊していること、またその数はヒトの交通量に相関するであろうことは、感覚的には認識しやすい事実かと思います。私たちの今回の結果は、その事実を科学的データとして示したものであり、ヒトの生活環境における細菌の挙動実態に光を当てたものと考えております。

本研究の最大のネックは『測定中はずっとチカホにいなければいけない』という点でした。エアサンプラーという高価な機材（しかも一部はレンタル）を、不特定多数の人々が通るチカホに設置したため、その監視をするためにつきっきりでチカホにいなくてはいけませんでした。採材は8時～20時までの12時間連続を3回行なったため、延べ36時間以上チカホに居たことになります。これだけ長い時間チカホに滞在したのは、警備員や内部店舗の従業員を除けばいないのではないでしょうか…？とはいえ、作業の合間には、興味を持って話しかけてこられた方に対応したり、チカホ内の「銀だこ」や「31アイスクリーム」で補給したりと、それなりに楽しいチカホ滞在を過ごしておりましたが。札幌近郊にお住まいの方は、今後チカホを通る際に、このような活動が人知れず行なわれていたことを思い起こして頂ければ幸いです。

上記のような長時間作業をこなすことができたのは、サポートに回ってくれた本研究室の学部生・大学院生のおかげです。また、本研究室の山口教授には、機材の搬入やドリンク・菓子の差し入れなどのご助力を頂きました。どうもありがとうございました。また、本学術総会の開催に当たってご尽力頂いた総会長の東先生、並びに支部会関係者の皆様に感謝申し上げます。

大久保　寅彦　（Okubo Torahiko）

〈略歴〉

東京都出身。2015年3月酪農学園大学大学院獣医学研究科博士課程修了、同5月より現職。

〈主な研究テーマ〉細菌と原生生物の相互作用の解明

〈趣味〉野鳥観察。昨年に続き、今年もアフリカでハシビロコウを観察。写真はビクトリア湖の湖岸にて自撮り。

特集

新世話人からの自己・研究紹介!

私たちの研究室

酪農学園大学 獣医学群
獣医細菌学ユニット　内田　郁夫

本年４月退職された菊池先生の後任として、酪農学園大学獣医細菌学ユニットを担当することになりました。ご存じない方が多いと思いますので、この場を借りて簡単に自己紹介させていただきます。私は、昭和 56 年北海道大学大学院獣医学研究科修士課程を修了後、農林水産省家畜衛生試験場（現：農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門）に採用され、その後 36 年間研究職員として仕事をしてきました。最初の 16 年間は茨城県にあるつくば本所で診断液の製造や炭疽菌の病原因子に関する研究に従事しました。その後 18 年間、札幌ドームのとなりにある北海道支所で牛のサルモネラ症や乳房炎の研究を行い、最後の 2 年間は、つくば本所で研究管理職として務めました。

私たちの研究室である獣医細菌学ユニットの内訳ですが、教授の私と、講師の村田先生の 2 名が教員として運営しております。現在、4 年生 6 名、5 年生 5 名、6 年生 6 名の計 17 名の学生が在籍しています。現在、大学院生は在籍していませんが、次年度 1 名が入学する予定です。本ユニットでは細菌感染症の疫学的解析と、遺伝学的手法を用いた細菌の系統分類に関する研究が主なテーマであり、次のような研究を行っています。「日本における動物のレプトスピラ感染症の調査」「MALDI-TOF MS による動物由来細菌の網羅的解析」「セラピードッグにおける人獣共通感染症起因菌の保有調査」などの研究を実施し、“獣医臨床現場と結びついた細菌学”をモットーに教育・研究を行っています。さらに、これらの研究に加えて、「サルモネラにおける ADP-リボシル化毒素の機能解析」等についても研究を開始したところであります。臨床細菌学的な研究に加えて、病原因子解析等若干基礎的な研究も新たに展開する予定です。

以上、簡単ではありますが、私たちの研究室について紹介させていただきました。今後とも、支部会の諸先生方のご協力、ご指導いただければ幸いです。

ご挨拶

札幌医科大学医学部動物実験施設部
佐々木 崇

この度、日本細菌学会北海道支部幹事を仰せつかりました、札幌医科大学医学部動物実験施設部の佐々木崇と申します。皆様から色々とご指導賜りながら、職責を果たせるよう頑張ります。宜しくお願い申し上げます。

学生時代および動物病院で働いていた頃から、ずっとブドウ球菌に興味がありました。MRSAの世界的権威である平松啓一先生と故伊藤輝代先生がいらした順天堂大学大学院博士課程に、2006年より進学致しました。幸運にも学位論文において、イヌに蔓延するメチシリン耐性*Staphylococcus pseudintermedius* (MRSP)を命名でき、人間のMRSAにあたるイヌの院内耐性菌である同菌について、長らく研究することができました。

現在は、生態学的手法やゲノミクスの手法を用い、哺乳類動物と共存の道を選んで進化を成し遂げてきたブドウ球菌の進化生態学を追究しています。その他、次世代シーケンスを用いた細菌叢解析により、様々な疾患と細菌叢との関連について研究を行なっています。

東京から北海道にやってきたのは、札幌医科大学動物実験施設部の磯貝浩先生の後任人事のためでした。実験動物学分野については、微生物学以上にまだまだ勉強中の身分ですが、両分野の橋渡し研究ができるよう、今後とも努力していきたいと思います。宜しくお願い致します。

写真 佐々木 崇

<略歴>

2009 年：順天堂大学大学院感染制御科学・平松啓一教授の下で博士課程修了
2009-10 年：日本学術振興会特別研究員 DC2, PD
2011-13 年：日本学術振興会特別研究員 PD
2014-17 年：順天堂大学医学部微生物学・助教
2017 年：札幌医科大学医学部動物実験施設部・講師（現職）

〈主な研究テーマ〉

ブドウ球菌の生態、薬剤耐性、ゲノミクス、皮膚・腸内細菌叢解析等

研究室紹介

北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター

感染・免疫部門

古田芳一

2016 年 9 月より北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター感染・免疫部門におります、古田芳一と申します。北海道に移って早 1 年、今後細菌学会北海道支部に積極的に貢献していければと考えております。細菌のゲノムやエピゲノムが進化や病原性に及ぼす影響について、ゲノム配列比較解析や実験解析を通じて研究を進めています。特に Illumina や PacBio などの高出力シークエンサーによるゲノム解読、その後のゲノム配列比較解析を得意としておりますので、こうした解析についてお困りの際は、ぜひお声がけください。

北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターには、人と動物の間で感染が成立する、人獣共通感染症を引き起こす微生物について研究を行っている施設です。その中で、当部門は人獣共通感染症である炭疽を引き起こす炭疽菌(*Bacillus anthracis*)を中心に研究しています。炭疽菌は発見からすでに 160 年以上経っており、コッホの原則によって病気の原因菌であると初めて同定された菌であることからもわかるように、すでに長く研究が重ねられてきた菌種です。日本では炭疽の事例は近年起こっておらず、むしろバイオテロでの使用を懸念する場面で注目されることが多い菌ですが、世界に目を向けるとアフリカ南部や中央アジアにおいては野生動物や家畜における感染事例が現在でも多く見られます。こうした感染事例が起こる地域での炭疽菌の診断、治療及び予防に貢献する研究を行うことが当部門の使命であり、下記のプロジェクトが進行中です。

(1) 炭疽の毒素タンパク質の部分配列を用いたワクチン開発

炭疽菌は生ワクチンが開発されているが、人への使用は効果が持続する期間が短く、また副作用が強いことが知られています。より効果的なワクチンの開発を目指し、毒素タンパク質の一つである防御抗原の部分タンパク質をスクリーニングしています。同じく防御抗原の部分タンパク質を用いた炭疽菌由来の抗体を検出する ELISA の開発も行っています。

(2) 炭疽菌ザンビア分離株のゲノム解析

アフリカ南部に位置するザンビアでは、野生動物や家畜の炭疽菌の感染事例、さらに人への感染事例がたびたび起こっています。実際に感染事例が起こった地域でサンプリングを行い、菌体の分離培養や PCR 解析などの手法を用いた疫学調査を行っています。また、ザンビア国内で多発している炭疽菌感染事例が同一の株によって引き起こされているのか、あるいは多様な炭疽菌が分布し感染事例を引き起こしているのか、を解析するため、ゲノム DNA を分離し、高出力シークエンサーを用いて解読しています。全ゲノム配列を比較することで、マーカー遺伝子や MLST に比べて、より高い解像度での株間比較を行っています。

上記の他、炭疽菌毒素タンパク質の発現制御メカニズムの分子生物学的解析や、近縁種であるセレウス菌のゲノム疫学解析なども行っています。

部門は、東秀明教授と私古田、博士課程学生 3 名、技術補佐員と事務補佐員 1 名ずつ、の構成です。現在学生全員が論文を執筆中であり、今後の細菌学会総会や北海道支部会などで成果について紹介し、議論をさせていただければ幸いです。

右より二番目が東教授、左端が筆者。

幹事就任の挨拶

帯広畜産大学 獣医学研究部門 基礎獣医学分野 廣井豊子

この度、新たに細菌学会北海道支部幹事を務めさせていただくことになりました、帯広畜産大学の廣井豊子と申します。支部の他の世話人の先生方と共に、細菌学会北海道支部会及び支部会員の先生方の発展に、微力ながらお手伝いできれば非常に幸いです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

簡単に私の経歴を紹介させていただきます。私は大阪出身で、大阪府立大学農学部獣医学科 (現・ 大阪府立大学 生命環境科学域 獣医学類)を卒業しております。卒業研究のため獣医公衆衛生学教室に所属し、そこでボツリヌス E 型毒素の受容体や C3 酵素の細胞変性作用に関する研究を教えて頂きました。当時、獣医公衆衛生学教室には、(故)阪口玄二教授をはじめ、植村輿先生, 大石巌先生, 小崎俊司先生, 鎌田洋一先生が教員として我々学生の指導をしてくださっていました。その頃は何も思っておりませんでしたが、今改めて「錚々たるメンバーから指導を受けていたんだ！」と思う次第です。これが私にとって「研究」との出会いであり、卒業研究を通して、細菌学、タンパク質化学、細胞生物学の基礎はもちろん「ライフサイエンス」の面白さ、奥深さ、厳しさを教えていただきました。卒業後は研究の道を選んだものの細菌学からは離れ、医薬系企業の基礎研究所、大阪市立大学医学部での「薬物代謝・動態学」、米国 NIH 及びジョンズポプキンス大学医学部での「膜輸送に関わる GTPase」や「炎症性サイトカイン制御」など分子細胞生物学分野の基礎研究を経て、2012 年夏に帯広畜産大学に赴任してまいりました。現在は、帯広畜産大学で獣医公衆衛生学系科目の教育に携わりながら、細菌感染症の感染機序や病原性発現機序の解明をキーワードに分子細胞生物学的研究を始めている状態です。このように大阪府立大学卒業後から帯広畜産大学に赴任するまでの 20 年ほどの期間は、直接細菌学を主とした研究を行ってきたわけではありませんが、大阪府立大学で学んだことは私の礎であり細菌感染症というキーワードは常に私の中にあったように思います。

(年齢に合わず!) 細菌学学者としてはまだまだ新米と言える幹事で、支部会員の先生方に教えて頂く事も多いと思いますが、北海道支部会の発展を通して、支部会員の先生方や先生方に指導を受けている若い学生さんの研究活動に少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思います。

どうかご指導の程、何卒よろしくお願いいたします。

研究室紹介　－細菌と原生生物の狭間で－

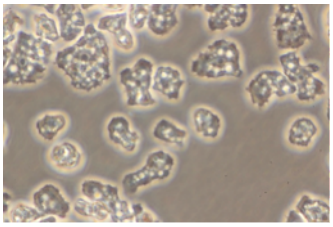
北海道大学大学院 保健科学研究院 病態解析学分野 感染制御検査学研究室

私たち感染制御検査学研究室では「微生物相互作用」をキーワードとして研究を行なっています。具体的なテーマとしては、① 病原性クラミジアの低酸素環境下における感染動態、② 原始クラミジアと原生生物（アメーバ）の相互作用、③ 病原菌・薬剤耐性菌と原生生物（アメーバ、繊毛虫）の相互作用 などを研究中です。また、環境中での微生物の挙動についても調査を始め、④ 地下歩行空間における細菌叢の解明 を行なっております。

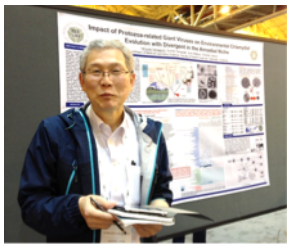
本研究室では複数の原生生物株を保有しています。アメーバ(左下図)や繊毛虫は、野外の土壌や水中に多数棲息していますが、細菌に比べると世間の注目を集めることが少ない微生物といえるでしょう。しかしながら、自然界では細菌と原生生物が同時に存在して生態系を構成している以上、両者は何らかの相互作用を及ぼしあっていると考えられます。そうした相互作用が、病原性細菌の環境中での維持に寄与したり、あるいは逆に排除に貢献したりといった観点で研究を行なっているのが、本研究室の特色といえるでしょう。個人的な感想としては、アメーバが活発に仮足を伸ばす様子や、繊毛虫がフサフサとした繊毛をそよがせている姿などは大変ユニークで、顕微鏡を覗くたびに新鮮な驚きを提供してくれます。ご興味がありましたら、ぜひ一度原生生物を覗きにお越しください。(細菌学会の支部会報なのに原生生物をアピールしていてすみません…)

本研究室は山口博之教授を筆頭に講師１名、助教１名、修士学生３名が在籍しています。大学教育として北大医学部保健学科（検査技術科学専攻）を担当し、臨床検査技師の国家　　資格取得を目指した授業を行なっているため、北大病院の細菌検査室とも一部共同研究を　行なっています。学部生の卒業研究は期間が半年程度と限られていますが、例年８～９名を受けいれているため、期間中は非常に賑やかになります。また、高校生対象の細菌学公開　　講座なども主催しているほか、他機関との共同研究も実施しております。

（北大院・保科・病態解析　助教 大久保寅彦）



アメーバ鏡検像（x600）



国際学会でのポスター発表

ご挨拶と研究室紹介

札幌医科大学医学部微生物学講座
佐藤　豊孝

この度、本会の幹事にさせていただきました、札幌医科大学の佐藤と申します。私は生まれから高校までを釧路市で、大学は江別市の酪農学園大学、そして 2015 年から今の札幌医科大学と北海道とともに人生を歩んできております。本会の参加は自身がまだ学部生だった頃の 9 年前(2008 年)にまで遡ります。私の記憶ではその時が学会発表デビューではなかったかと思います。過度の緊張からか内容は全く覚えておりませんが、印象として自身で積み上げてきた研究テーマを人様の前で発表できたという達成感が大きかったように感じています。それから毎年(米国留学の 2013-2014 年は除く)本会には参加させていただいております。ですので、本会によって私の研究者としてのスキルを育てていただいていることは言うまでもありません。自身の発表を通じてご質問やアドバイスをいただけることが、自身が考えてもいなかった発想の転換に至ったことや、学会発表を通じて皆様方に自分の研究をわかってもらおうとする思いが今の研究に対する熱意の一因になっているのだと実感しております。そんな自分が気付けば幹事メンバーに加わっている、、、なんとも感慨深いものです。

私の所属する札幌医科大学医学部微生物学講座は、横田伸一教授を筆頭に、私を含め 4 人のスタッフが研究を行なっております。うち 2 人(山本先生・小笠原先生)はウイルス・免疫班、白石先生と私が細菌班と分かれます。白石先生は乳酸菌の菌体表層の構造解析のスペシャリストでわからないことはいつもご教授いただけたり、解析をお願いさせていただいております。私は、薬剤耐性菌の分子疫学的解析や耐性機構の解析などを行っております。研究のモットーは『基礎から臨床へ』です。附属病院の検査部の先生方ととても良い関係を築かせていただいており、臨床検体から分離されてくる多剤耐性菌の解析を中心に研究を行っており、それらの知見を基に多剤耐性菌の制御や新たな治療戦略の構築に繋がる研究をしていけたらと考えております。

まだまだ未熟者だと感じておりますので、本会を通して色々とご指導頂けたら幸いです。今度とも宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

第 85 回日本細菌学会北海道支部総会開催にあたって

酪農学園大学獣医学群獣医学類
内田　郁夫

平成 30 年度第 85 回日本細菌学会北海道支部総会の開催をお手伝いさせていただくことになりました。総会開催日は 2018 年 9 月 8 日（土曜日）と決定し、準備を進めています。会場は、江別市にある酪農学園大学学生ホールです。札幌市内から遠く、交通の便においては少々ご不便をおかけするかもしれませんが、是非多数の皆様がご発表並びにご参加下さるように、お願い申し上げます。

本学での支部総会の開催は、今回で 4 回目となります。1 回目の総会が 1993 年平棟孝志先生、第 2 回目が、2012 年菊池直哉先生、第 3 回目が 2010 年田村豊先生の総会長のもと開催されており、本学で開催されるのは 8 年ぶりとなります。本年 3 月菊池先生が退職され、その後任として私が本学獣医細菌学ユニットを担当することになりました。4 月に赴任したばかりですが、来年度の学会を主催することになりました。大変光栄なことではありますが、私にとってはじめてのことであり、大変荷が重く、不安を感じております。ささやかではありますが細菌学会北海道支部会へ貢献したく、お引き受けすることにいたしました。

今回は特別講演として「耐性菌時代の新たな戦略―ファージの応用(仮題)」という内容で、東京工業大学の丹治保典先生と本学獣医生化学ユニットの岩野英知先生のお二人にお話しいただく予定になっております。第 85 回の支部会が成功するように、会員の皆様、ご協力よろしくお願いいたします。

第 92 回日本細菌学会総会に向けた準備状況

支部会の先生へ

2019 年の 3 月 27 日(水曜日)から 3 月 29 日(金曜日)にかけ札幌コンベンションセンターで第 92 回日本細菌学会総会を開催することになりました。2011 年に中根先生が IUMS との合同学会として日本細菌学会を開催されましたが、札幌での単独開催は、2000 年に皆川先生が開催されて以来、約 20 年ぶりとなります。

具体的なテーマや開催内容はまだ白紙に近い状態ですが、参加者が、時間を忘れて討議できるような、そんな熱い学会にできればと考えています。例えば、ポスター発表者全てにオーラル発表の機会を与えたり、シンポジウムやワークショップは質疑応答の時間をこれまで以上にふんだんに設けるのもいいでしょう。展示を出してくれた企業に就職説明会も同時にやってもらうのも特に若い会員にはメリットがあるかもしれません。また札幌近郊の高校生に生物系研究の発表の場を提供すれば、会員との交流を通して、細菌学が大好きになってくれるかもしれません。さらに一般の方に細菌学会の研究内容を広く知ってもらうための市民公開講座の同時開催もぜひトライしてみたいと思っています。まだまだ妄想に近い思いつきにすぎませんが、徐々に具体化させていきます。学会の運営は、エーイー企画、学術内容そのものは企画調整委員会と密に連携を取りながら決めていくことになりますが、とにかく濃密で面白い学会にすべく鋭意努力します。ぜひ色々なご意見をお寄せください。

参加してくださった会員の皆さんに「今回の細菌学会は面白かった!」と口を揃えておっしゃっていただけるような、そんな学会にできればと思っています。またチームワークの良い北海道支部だからこそできるアットホームな学会を目指し、オール北海道で学会開催にあたりたいと思います。ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

開催時期がまだまだ雪が降る寒い季節ですが、暖かな「おもてなし」の気持ちがあれば、なんとかなると信じ、前進あるのみ!

北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野
山口博之

日本細菌学会北海道支部会則

総　則

1. 本会は日本細菌学会北海道支部という。
2. 本会は北海道在住の細菌学関係研究者によって組織される団体である。
3. 本会は細菌学領域の進歩を促進することを目的とする。
4. 本会の目的を達成するために次のような事業を行う。
   イ. 学術集会（学術総会・集談会等）の開催
   ロ. 日本細菌学会本部との連絡
   ハ. 国内の関係諸機関諸学会との連絡
   ニ. その他必要と認められる事業

会　員

5. 本会の趣旨に賛成する人は会員となることができる。
6. 会員は会費を納めなければならない。
7. 会員はその業績を学術総会において発表することができる。
8. 会員は評議員1名以上の賛成を得た上で本会の運営に関する議案を評議員会に提出することができる。
9. 本会の趣旨に賛同し、本会の活動を援助するために、毎年一定の賛助会費を納めた団体あるいは個人を賛助会員とする。

役員及び役員会

10. 本会に次の役員をおく。

支部長 1名	評議員 若干名	庶務係 1名
会計係 1名	幹事 若干名	会計監事 2名

11. 次期支部長は現評議員の互選に基づきこれを定め総会において了承を得る。
12. 新評議員は会員の中から、支部長がこれを委嘱する。
13. 会計監事、幹事、庶務係及び会計係は会員の中から支部長がこれを委嘱する。
14. 支部長、幹事、庶務係ならびに会計係は会計監事になることができない。
15. 支部長は本会を代表し、会務を統括する。
16. 評議員は支部長の選出のほか、本会の事業の企画、立案、運営等について評議する。
17. 評議員会の議事は、出席者の過半数を持って決せる。但し、可否同数の場合は

支部長の判断により決する。

18. 幹事は支部長を補佐する。
19. 会計監事は本会の会計を監査する。
20. 評議員会及び幹事会は支部長が召集する。
21. 役員の任期は 2 年とし再任を妨げない。
22. 役員に欠員を生じた場合の後任役員の任期は、前任者の残任期間とする。

集　会

23. 支部総会及び学術総会は、原則として年に 1 回開催される。
24. 支部総会において支部長は会務の報告を行う。
25. 本学会の運営の基本に関する事項及び本会則の変更は、会務総会において出席者の過半数の賛同によって決定する。
26. 時宜に応じて他の学会、研究会等と合同して集会を開催することができる。
27. 総会長は、原則として学術総会の一般演題より優秀な発表を選出しなければならない。その名称を日本細菌学会北海道支部会賞とする。ただし表彰の内容は総会長に一任する。

学術総会長

28. 学術総会長は、評議員会で推薦し、支部総会で決定する。

会　計

29. 本会の経費は会費及び賛助会費、日本細菌学会からの補助金、その他の収入をもってこれに充てる。
30. 本会の会計年度は 1 月 1 日に始まり 12 月 31 日に終わる。
31. 会計監事はこの会の会計の監査を行うものとする。

事務所

32. 本会の事務所は支部長所在の機関に置くものとする。

付　則

33. この会則は平成 3 年 2 月 27 日より施行する。
34. 会則の変更は評議員会の議決により支部総会の承認を必要とする。
35. 支部会員会費は年額 1,000 円とする。賛助会員は一口 10,000 円とする。

36. 講師謝礼金

イ. 集会の講師に対する謝礼金及び旅費を支出することができる。

ロ. 集会の講師謝礼金は、北海道在住の講師については 2 万円、その他の講師については 3 万円とする。

ハ. 講師謝礼金の変更は評議員会及び総会でこれを報告しなければならない。

37. 学生研究奨励金

イ. 北海道支部学術総会開催地と発表者が所属する大学・大学院とが遠隔である場合、助成金として 1 万円を支部会幹事・評議員会の審議を経て支給する。

ロ. 対象者は大学学部学生と大学院生とする。

38. この会則は平成 10 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

39. この会則は平成 14 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

40. この会則は平成 16 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

41. この会則は平成 24 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

42. この会則は平成 25 年 1 月 1 日より一部改正施行する。

日本細菌学会北海道支部学術総会
歴代開催記録

回	開催年月日	総会世話人 / 総会長	総会開催場所
18	1961.02.17	-	北海道大学医学部講堂
19	1961.11.28	-	北海道大学農学部新館
20	1962.02.17	植竹久雄（北海道大学医学部）	札幌医科大学西第 2 講堂
21	1962.11.17	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所
22	1963.02.23	山田守英（北海道大学医学部）	札幌医科大学西第 2 講堂
23	1963.12.06	植竹久雄（北海道大学医学部）	北海道大学農学部本館中講堂
24	1964.02.22	平戸勝七（北海道大学獣医学部）	北海道大学獣医学部
25	1964.12.04	林喬義（札幌医科大学）	札幌医科大学西第 3 講堂
26	1965.02.19	三浦四郎（北海道大学獣医学部）	田辺製薬ビル 6F
27	1965.12.03	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所
28	1966.02.18	伊藤英治（北海道大学理学部）	-
29	1966.12.09	大原達（北海道大学結核研究所）	田辺製薬ビル 6F
31	1967.12.09	林喬義（札幌医科大学）	札幌医科大学西第 3 講堂
32	1968.02.23	飯田広夫（北海道立衛生研究所）	札幌医科大学西第 3 講堂
33	1968.12.06	山田守英（北海道大学医学部）	武田ビル
34	1969.02.27	高橋義夫（北海道大学結核研究所）	武田ビル
35	1969.12.12	三浦四郎（北海道大学獣医学部）	武田ビル
37	1971.01.22	飯田広夫（北海道大学医学部）	武田ビル
38	1972.02.26	大原達（北海道大学結核研究所）	ムトウビル 6F 講堂
42	1974.09.27	林喬義（札幌医科大学）	ムトウビル 6F 講堂
43	1975.09.26	林喬義（札幌医科大学）	ムトウビル 6F 講堂
44	1976.09.17	熊谷満（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所共用東講堂
45	1977.09.30	熊谷満（北海道立衛生研究所）	ムトウビル 6F 講堂
46	1978.09.29	鈴木武（北海道大学歯学部）	北海道立衛生研究所共用東講堂
47	1979.09.22	鈴木武（北海道大学歯学部）	北海道大学歯学部講堂
48	1980.09.26	梁川良（北海道大学獣医学部）	ムトウビル 6F 講堂
49	1981.09.17	梁川良（北海道大学獣医学部）	ムトウビル 6F 講堂
50	1982.09.17	山本健一（北海道大学免疫科学研究所）	ムトウビル 6F 講堂
51	1983.09.09	黒田収子（北海道薬科大学）	-
52	1984.10.26	飯田広夫（北海道大学医学部）	ムトウビル 6F 講堂

53	1985.09.13	飯田広夫（北海道大学医学部）	ムトウビル 6F 講堂
54	1986.09.19	伊佐山康郎（家畜衛生試験場北海道支場）	ムトウビル 6F 講堂
55	1987.09.25	小熊恵二（札幌医科大学医学部）	ムトウビル 6F 講堂
56	1988.10.21	小熊恵二（札幌医科大学医学部）	大通り公園ビル（ヤクルト）会議室
57	1989.09.29	宮川栄一（家畜衛生試験場北海道支場）	家畜衛生試験場北海道支場会議室
58	1990.09.28	宮川栄一（家畜衛生試験場北海道支場）	-
59	1991.11.15	皆川知紀（北海道大学医学部）	ムトウビル 6F 講堂
60	1992.11.20	皆川知紀（北海道大学医学部）	北海道大学百年記念会館講堂
61	1993.11.13	平棟孝志（酪農学園大学獣医学部）	酪農学園大学獣医 3 号館
62	1994.10.29	中島良徳（北海道薬科大学薬学部）	北海道薬科大学
63	1995.10.07	馬場久衛（北海道医療大学歯学部）	北海道医療大学 P1 講堂
64	1996.09.21	江口正志（家畜衛生試験場北海道支場）	農林水産省北海道農業試験場
65	1997.10.25	渡邊継男（北海道大学歯学部）	北海道大学学術交流会館
66	1998.10.24	都築俊文（北海道立衛生研究所）	北海道立衛生研究所講堂
67	1999.10.23	藤田晃三（札幌市衛生研究所）	札幌市衛生研究所
68	2000.09.28-29	中根明夫（弘前大学医学部）	弘前大学医学部
69	2001.10.27	絵面良男（北海道大学水産学部）	北海道大学水産学部
70	2002.10.26	菊池直哉（酪農学園大学獣医学部）	酪農学園大学学生ホール
71	2003.09.14	大山徹（東京農業大学）	東京農業大学
72	2004.09.03	藤井暢弘（札幌医科大学）	札幌医科大学記念ホール
73	2005.09.17	柴田健一郎（北海道大学）	北海道大学学術交流会館
74	2006.09.02	磯貝浩（札幌医科大学）	ムトウビル 6F 講堂
75	2007.09.08	中澤太（北海道医療大学）	北海道医療大学サテライトキャンパス
76	2008.09.06	鈴木定彦（北海道大学）	北大獣医学研究科附属動物病院講堂
77	2009.09.18	山口博之（北海道大学）	北海道大学百年記念会館
78	2010.09.03-04	田村豊（酪農学園大学）	北大百年記念会館・酪農大学生ホール
79	2012.08.28-29	川本恵子・倉園久生（帯広畜産大学）	とかちプラザ 2F 視聴覚室
80	2013.08.30-31	丹羽光一（東京農業大学）	東京農業大学生物産業学部
81	2014.08.29-30	横田伸一（札幌医科大学）	札医大医学部臨床教育研究棟 1 階講堂
82	2015.09.05	中澤太（北海道医療大学）	北海道医療大学心理科学部 4F 講義室
83	2016.09.17	柴田健一郎（北海道大学）	北大大学院歯学研究科・歯学部講堂
84	2017.08.26	東秀明（北海道大学）	北大人獣共通感染症リサーチセンター

日本細菌学会北海道支部
役員名簿

日本細菌学会北海道支部 役員名簿（五十音順, 敬称略）

評議員	所属
○磯貝 浩	札幌医科大学医学部動物実験施設部
内田 郁夫	酪農学園獣医学群感染・病理学分野
大山 徹	北海道文教大学人間科学部健康栄養学科
○川本 恵子	帯広畜産大学動物食品衛生研究センター
木村 浩一	北海道文教大学人間科学部健康栄養学科
○倉園 久生	帯広畜産大学畜産衛生学研究部門食品衛生学分野
小林 宣道	札幌医科大学医学部衛生学講座
○柴田 健一郎	北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学分野口腔分子微生物学
杉本 千尋	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター国際協力教育部門
鈴木 定彦	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター国際疫学部門
田村 豊	酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野
中澤 太	北海道医療大学歯学部口腔生物学系微生物学分野
丹羽 光一	東京農業大学生物産業学部食品香粧学科
東 秀明	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター感染・免疫部門
樋口 豪紀	酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野
○山口 博之#	北海道大学保健科学研究院病態解析学分野感染制御検査学
○横田 伸一*	札幌医科大学医学部微生物学講座

○:本会評議員、#:本会理事、*:支部長

幹事	所属
臼井 優	酪農学園大学獣医学群衛生・環境学分野
大久保 寅彦	北海道大学保健科学研究院病態解析学分野感染制御検査学
相根 義昌	東京農業大学生物産業学部食品香粧学科
佐々木 崇	札幌医科大学医学部動物実験施設部
佐藤 豊孝	札幌医科大学医学部微生物学講座
白石 宗	札幌医科大学医学部微生物学講座
豊留 孝仁	帯広畜産大学動物・食品検査診断センター食品リスク分野
中島 千絵	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターバイオリソース部門
長谷部 晃	北海道大学大学院歯学研究科口腔病態学分野口腔分子微生物学
廣井 豊子	帯広畜産大学獣医学研究部門応用獣医学系
古田 芳一	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター感染・免疫部門
松尾 淳司	北海道大学保健科学研究院病態解析学分野感染制御検査学
宮川 博史	北海道医療大学歯学部口腔生物学系微生物学分野
村田 亮	酪農学園大学獣医学群感染・病理学分野
会計監事	所属
小華和 柾志	北海道大学大学院医学研究科医学教育推進センター
菊池 直哉	天使大学看護栄養学部栄養学科

編集後記

北海道も本格的な雪の季節を迎え、今年の学術総会が夏の暑い中で行われたことを思うと、時のたつのは早いものだとつくづく感じます。今年度のトピックスとして挙げられるのは、細菌学会の運営改革の一環として、支部会費の本会による徴収が廃止され、支部活動費は申請による本会からの交付となりました。幸いなことに、北海道支部はこれまでの活動を認めていただき、予想以上の交付金をいただくことができました。これも支部会員の皆様のご協力の賜物であると、あらためてお礼申し上げます。

細菌学会の現在抱える問題点として、第一に会員数の減少が挙げられます。北海道支部の会員数は微増もしくは横ばいで、このままの状態を維持できればと思っています。また今年度は支部会の更なる活性化を目指すため、若手研究者に活躍していただきたく、幹事をさらに増やさせていただきました。また、若手中心で開催されている札幌微生物研究者合同セミナーの後援を今年度も行う予定です。今後も細菌学を主眼としたセミナーや研究会を実施している、または新しく立ちあげようとされている方がおられましたら細菌学会北海道支部が後援させていただきたいと思いますので、支部長までご一報ください。

再来年は北海道大学保健科学研究院の山口博之先生を総会長として、第 92 回日本細菌学会総会が札幌で開催される予定です。山口先生からは「オール北海道」で行いたいとうかがっています。支部会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成 29 年 12 月

細菌学会北海道支部長
札幌医科大学 医学部 微生物学講座
横田 伸一

日本細菌学会 北海道支部会報 第 **26** 号 **2017** 年 **12** 月

編集主幹

横田 伸一　（日本細菌学会北海道支部長 / 札幌医科大学医学部）

編集委員長

佐藤 豊孝　（札幌医科大学医学部）

編集委員

臼井 優　（酪農学園大学獣医学群）
大久保 寅彦　（北海道大学保健科学研究院）
相根 義昌　（東京農業大学生物産業学部）
佐々木 崇　（札幌医科大学医学部）
白石 宗　（札幌医科大学医学部）
豊留 孝仁　（帯広畜産大学動物・食品検査診断センター）
中島 千絵　（北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター）
長谷部 晃　（北海道大学大学院歯学研究科）
廣井 豊子　（帯広畜産大学獣医学研究部）
古田 芳一　（北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター）
松尾 淳司　（北海道大学保健科学研究院）
宮川 博史　（北海道医療大学歯学部）
村田 亮　（酪農学園大学獣医学群）

発行 ： 日本細菌学会北海道支部
事務局：札幌医科大学 医学部 微生物学講座
〒**060-8556** 札幌市中央区南 **1** 条西 **17** 丁目
Tel : (代表**) 011-611-2111 (**内線**) 27120**
Fax : 011-614-3732